

研究課題: スポーツコーチの継続的専門能力向上プログラムの開発と展開

研究代表: 伊藤雅充

我々は、大学院教育の範囲内で Athlete-centred Coaching の研究と実践を行ってきた。本学モデルの大学院コーチ教育プログラムをベースに、全国各地のスポーツコーチが継続して専門能力を向上させていくためのプログラムを開発し展開することによって、最新のコーチング学に触れる機会が少ないコーチが学ぶ機会を得やすくなり、スポーツ環境の改善が期待できる。そこで本研究では、コーチングに関する世界的な状況をこれまでに引き続き調査を行い、効果的なコーチの学びを促進する継続的専門能力プログラム開発を行った。そして、全国8カ所でセミナーを開催し、参加者からの意見を収集し、プログラムの改善を行った。

具体的には①国外コーチングの調査・分析、②国際コーチング・カンファレンス開催、③ Athlete-centred Coaching セミナー開催、④オンライン CPD プログラム開発を行った。①国外コーチングの調査・分析ではオーストラリアのコーチ教育プログラムの調査・情報収集、南アフリカで開催された国際コーチングエクセレンス協議会世界会議での情報収集、ドイツおよびイギリスでの継続的専門能力向上プログラムの調査を行った。②国際コーチング・カンファレンス(平成 26 年 1 月 23 日開催)では、オーストラリアのスポーツ強化拠点で「コーチの学び」をサポートし、高水準のコーチング能力開発プログラムを運営しているクイーンズランド大学の Mallet 博士(講演タイトル「Coach as learner: Australian research」)、および世界のコーチング学を牽引するクイーンズ大学(カナダ)の Côté 博士(講演タイトル「A Personal Assets Approach to Sport」)を招聘した。③ Athlete-centred Coaching セミナーを開催したのは、山口県周南市、新潟県新潟市、秋田県秋田市、愛媛県松山市、大阪府堺市、北海道伊達市、熊本県熊本市、愛知県名古屋市と日本体育大学東京世田谷キャンパスおよび健志台キャンパスの 10 カ所であった。セミナーは、参加者に対しての問いかけから始まり、その答えを模索する中で他者の観点を認め、自身の考えを問い直すことを促し、アスリートセンタードコーチングを行うコーチの姿勢と共通するものとなるようにデザインした。④オンライン CPD プログラム開発では、日本体育大学のサーバー内に本事業用のスペースを確保し、コーチの継続的専門能力向上支援を行うためのウェブページを構築し運用を開始した。サイト内では我々の推進しているアスリートセンタードコーチングを映像で学ぶことができるような工夫をした。また、本事業終了後も継続的に更新を行えるよう、柔軟なデザインとした。

複雑で動的なコーチングのニーズに応えるべく、コーチは常に学び続ける必要がある。今回の研究で行った取り組みを今後も継続して行っていくことが重要である。